

京都・三条西殿跡

やぶねじょうにじぶんの

- 1 所在地 京都市中京区烏丸通姫小路下ル場之町
2 調査期間 一九八一年(昭56)一月～五月
3 発掘機関 平安博物館

- 4 調査担当者 下條信行・植山茂・定森秀夫
5 遺跡の種類 都城跡

- 6 遺跡の年代 平安時代～江戸時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

発掘地は、平安時代後期に藤原摶関家の邸宅であった三条西殿の

東南角にあたる地点である。一九六九年に平安博物館が同所に「一本

のトレンチを入れていて、

三条大路の北側側溝と烏丸

小路の西側側溝と推定され

る溝が確認されていた。今

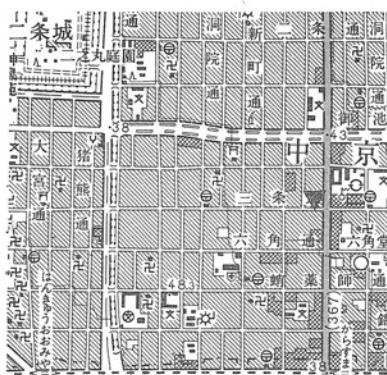
回は、全面的に発掘を行い、

主に中・近世の土壌・井戸

・瓦溜などを多数検出した

が、平安時代の遺構は極め

て少なかつた。



(京都東北部 2万5千分の1)

三条大路側溝としては、平安時代後期と推定される素掘りの溝がある。さらに、その南側に室町時代後半～江戸初期と推定される石組溝一本が重複して検出された。下段の石組溝は、石組の内側でさらに一段掘り下げられていて、埋土は暗青灰色粘質土となっていた。巡礼札はこの粘質土から出土し、室町時代後半と推定される。この上にさらに石組の溝があり、これは江戸初期まで使用されたと推定される。

8 木簡の釈文・内容

巡礼札は三枚検出され、それぞれ上端を尖り氣味にし、孔を有している(番号は実測図の番号と一致する。なお、釈文は当館の藤本孝一氏に御願いした)。

(1) 「西國卅二所順礼」

121×36×4 011

(2) 「西國卅二所順礼同行一人」

141×42×4 011

(3) 「西國卅二所順礼同行一人」

166×45×4 011

この種の巡礼札は伝世品として、岩手県中尊寺、栃木県鏡阿寺、滋賀県石山寺などに残っている。なお、当遺跡のすぐ近くに西国第十八番札所である六角堂(頂法寺)がある(地図参照)。

9 関係文献

白石太一郎・伊藤玄三・近藤喬一『平安京三条西殿跡

発掘調査報告』(『平安博物館研究紀要』3)一九七一年

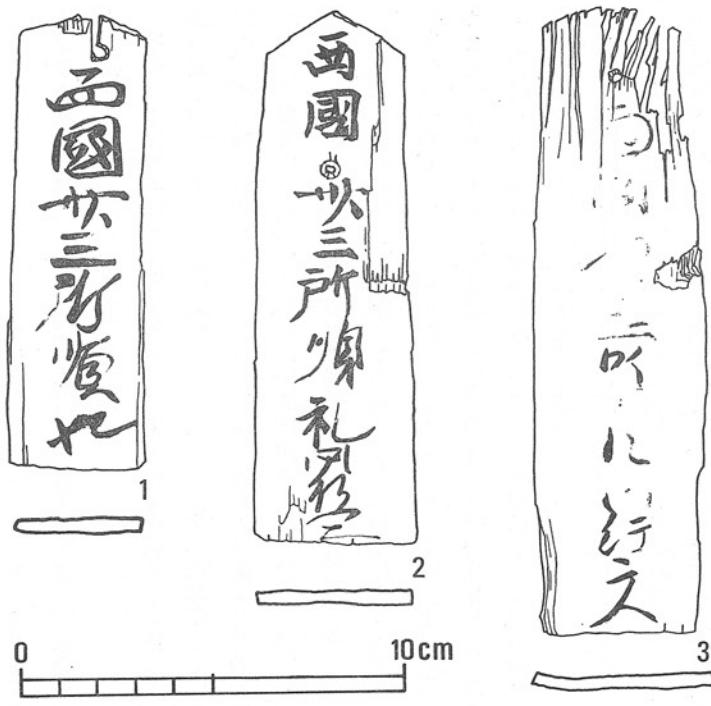
定森秀夫「図版解説・三条西殿跡出土の巡礼札」

(『古代文化』33—12)

一九八一年

(定森秀夫)

京都・鳥羽離宮跡



(京都西南部・京都東南部)

- | | | |
|---|---------------|--|
| 1 | 所在地 | 京都市伏見区竹田田中殿町 |
| 2 | 調査期間 | 一九八一年（昭56）一〇月～一二月 |
| 3 | 発掘機関 | 財京都市埋蔵文化財研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 上村和直 |
| 5 | 遺跡の種類 | 離宮跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 平安時代後期 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 一九八一年度に実施した鳥羽離宮跡の発掘調査は五箇所あり、木簡の出土した調査は第七二次調査である。 |

第七二次調査地は鳥羽離宮内の田中殿地区に推定されている。以前に行なわれた周辺の調査では、本調査地の北東約100mの地点で堆定田中殿建物群を、南西約200mの地点では推定金剛心院九躰阿弥陀堂を検出している。

一九八一年度に実施した鳥羽離宮跡の発掘調査は五箇所あり、木簡の出土した調査は第七二次調査である。

第七二次調査地は鳥羽離宮内の田中殿地区に推定さ

れており。以前に行なわれ

た周辺の調査では、本調査地の北東約100mの地点

で堆定田中殿建物群を、南西約200mの地点では推定金剛心院九躰阿弥陀堂を